

〔八年〕三月二十七日〔第九號〕達

今般支那交易見本トシテ左ノ品々入用候間精撰ノ上少量ツ、急速差出ヘシ

昆布各種

海鼠

鯢身欠

干鮭並鹽引

ホツキ具

此外海草干魚獸皮類產物多量ノ者

○樺太支廳

〔五年〕四月二十三日布達

是迄商船來着ノ節諸品銘々勝手ニ買取自然相場モ區々ニ付向後入船ノ毎度出納所並會所ニ於テ船方ヘ對談在品凡テ相當ノ直積リ爲致候筈ニ候間望ノ者ハ同所ヘ承合買取候様可致候万一不相用密買致候者有之候ハ、其品取上ノ上屹度御咎可被仰付候條心得違無之

六年五月十日布達ヲ以テ取消

様致ヘシ

製造

○公達

〔十五年〕三月十六日諸製造等引繼ノ件

○開拓使

〔六年〕二月達氷輸出期限

〔九年〕七月〔乙第四號〕布達昆布製方

○九月十七日達中諸製造ノ件

〔十年〕十月三十日〔第十三號〕達 本支廳宛

外國貨物輸入ヲ減シ輸出ヲ阜ニスルハ國家經濟上ノ要點ニシテ北海道ハ獨外國品ノミナラス府縣ノ輸入品ヲ減シ成ヘク管内ニテ支辨スル時ハ全道ノ益タル固ヨリ論ヲ俟ス附テハ向後厚ク注意ヲ加

製造

礦製部章程ニ在

會計部出港稅ニ在

警察部衛生ニ在

物産部陸産ニ在

へ工業製造其他需用ノ諸品其價ノ昂低アルモ管内ニテ辨給スヘキ者ハ之ヲ他ニ購セス管内ニ於テ得難キ者又ハ代用スヘキ者無キハ東京出張所ニ回議シ出張所ニ於テハ百万方購求シ外國品ニ非レハ其用ニ供シ難キ者ニ限輸入品ヲ用フヘシ

〔十一年〕十一月九日達

生糸ハ内國用ハ勿論外國貿易上ニ於テ最洪益ノ物産ニシテ先年來札幌ニ於テ蒸氣機械ヲ建設シ專ヲ精巧ノ生糸ヲ製スルハ既ニ世ノ知ル所ナリ尙ホ廣ク外邦ノ鑒定ヲ取シカ爲昨年ノ製糸ヲ我國駐劄伊太利國公使ニ依頼シ該國未蘭府商法會議局ニ送付セシニ最良品ニシテ後來歐州市場ニ於テ伊國産ト其聲價ヲ競フニ至ヘキ回答アリ抑該國ノ養蠶ハ當時宇内ノ冠絶ト稱セリ然ルニ如此賞賛ヲ下ス者ハ實ニ札幌製絲ノ精巧ニ因レリ故ニ後來益其精巧ヲ極メハ貿易上ニ於テ必洪益ヲ興スハ固ヨリ疑ヲ容サルナリ因テ管内養蠶者

十四年五月乙二號布達
ヲ以テ左ノ一條ヲ追加
第五條 製氷ヲ他管内
ハ其管轄セント欲ル者
ヨリ添給交付スヘキ
ニ付量數及採取場ノ
圖面並其送スヘキ
地名番號姓名等ヲ詳
記シ願出ヘシ
同第十條乙六號布達ヲ
以テ第二條中地名ヲ詳
記シ願出ヘシ
ハ届出警察官吏立會
員ノ檢査ヲ受ケ其檢査
証ヲ添へ郡區役所
ハ「ア」四十五字ヲ加フ
同上第五條中當使ノ二
字ヲ刪リ「郡區役所」
ノ十字ヲ加ヘ姓名等
ヲ記シ「下」郡區役所
ハ「」ノ十二字ヲ加フ

ハ皆能此意ヲ領シ益其業ヲ勉勵シ其榮譽ト實益ヲ永遠ニ保候様注
意スヘシ

〔十二年〕二月四日〔乙〕第〔二〕號〔達〕 本支廳宛

氷貯藏取締規則左ノ通相定

氷貯藏取締規則

第一條 沼池溝渠等溜滯汚濁水ノ氷ヲ貯藏若クハ販賣スルヲ禁ス
但食用ニ供セサル分ハ此限ニ非スト雖届出許可ヲ受ヘシ

第二條 氷貯藏者ハ毎年其採收場ノ圖面並貯藏所地名ヲ詳記シ願
出許可ヲ受ヘシ

第三條 採收ノ節不潔氷ト見認ルキハ其採收ヲ差止ル事アルヘシ
第四條 貯藏ノ節ハ其時々届出檢査ヲ受ヘシ若不潔ナルキハ貯藏
場ハ修理又ハ移轉ヲ命シ氷ハ第三條ニ準シ處分スル事アルヘシ

○六月六日〔第八〕號 本支廳宛

當使物產局諸製造所職夫例則別紙ノ通相定

(別紙)

物產局諸製造所職夫例則

第一條 職夫ハ篤實壯健ノ者ヲ撰ミ現術ニ使役スヘシ但其員ハ實地ノ適宜ニ隨フヘシ

第二條 製粉 造酒 製醬 職夫等級給料ヲ定ル左ノ如シ但雇入

ノ節ハ術業檢査ノ爲一日金十錢ヲ以五日間使役シ其用ニ堪ト認ル者ハ職夫見習ヲ命ス尤親戚或ハ故舊ノ者ヲ保証人ト爲シ左ノ書式ニ倣ヒ証書ヲ出サシムヘシ

等級 一等職夫 二等職夫 三等職夫 四等職夫 五等職夫 六等職夫 七等職夫 八等職夫 九等職夫 十等職夫 職夫見習
給料 金五十錢 金四十五 金四十錢 金三十五 金三十錢 金二十七 金二十五 金二十二 金二十錢 金十七錢 金十錢

第三條 一等職夫中業務勉勵技術練熟セシ者ハ特選シテ其給料ヲ増加シ或ハ御用係等へ登用スル事アルヘシ

第四條 雇入及黜陟放免等ノ節ハ物產局ノ辭令ヲ以之ヲ命シ給料ハ該所定額金ヨリ支給スヘシ

第五條 使役時間八日ノ長短ト事業繁閑ニヨリ之ヲ定ムヘシ

第六條 使役細目ハ係官員之ヲ指揮シ其勤惰ヲ監視スベシ

第七條 黜陟及定員補缺等局長之ヲ處分シ増員及特選増給等ハ其時々伺ヲ經テ處分スヘシ

第八條 宿直ノ者ハ例規ノ賄料ヲ給スヘシ

第九條 病氣ノ節ハ其旨届出日數三日ニ至ラハ更ニ醫案ヲ副テ其病証ヲ具狀シ在苒六十日間ニ及ビハ放免スヘシ但六十日間ニ及者ト雖局長ノ見込ヲ以臨機ノ處分ヲ爲ス事アルヘシ且病氣届出ノ日ヨリ給料ヲ止メ手當トシテ一日金十錢宛給與スヘシ

第十條 一等親ノ病變或ハ不得已事故アリテ一時歸省ヲ願時ハ往復ヲ除ク外日數十日間以内ハ之ヲ許スヘシ尤歸省中ハ給料ヲ與

本年九月一六號達ヲ以テ第十一條中九ヲ十ト改ム

ヘサルヘシ

第十一條 公事ニヨリ旅行スル者ハ渾テ旅費定則第九章ニ照シ支給スヘシ

第十二條 事業上死傷スル者ハ八年第五十四號公達ニ依リ處分スヘシ

第十三條 甲地ニテ雇入ノ者乙地ニ移タル後官ノ都合ニ據リ雇ヲ止ルカ或ハ病氣又ハ不得已事故ヲ以請願ノ上雇ヲ免スル時ハ手當トシテ甲地迄ノ旅費全額ヲ支給スヘシ

(書式略)

(十三年)六月達 根室支廳宛

別海製造所鑑詰現衛生徒例則別紙ノ通相定

(別紙)

根室鑑詰現衛生徒例則

第一條 生徒ハ其族屬ヲ問ハス篤實壯健ノ者ヲ撰用シ鑑詰ノ技術ヲ學ハシム但其員ハ實地ノ適宜ニ隨フヘキ事

第二條 生徒等級及月給ヲ定ル左ノ如シ

等級	一等現衛生徒	二等	同	三等	同	四等	同	五等	同	六等	同
月俸	金十五圓	金十二圓	金十圓	金八圓	金七圓	金六圓					

第三條 成業ハ大抵滿三ヶ年トス然レモ其業練熟ノ者ハ定限ニ滿タサルモ撰拔シテ當使官員御用掛等ニ登用スヘキ事

第四條 民事課官員ヲ以生徒取締ト爲シ其勤惰ヲ監視スル事

第五條 生徒課業ノ細目ハ時々所長取締ト商議シ之ヲ指揮スル事

第六條 課業時間ハ日ノ長短ニ因テ揭示スル事

第七條 生徒ハ其業ノ精粗勤惰ニ因テ毎歲春秋二季其等級ヲ黜陟スル事

第八條 規則ニ戻リ或ハ不行跡ノ者有之時ハ其輕重ニ因リ左ノ罰

製造

則ヲ科ス

第一 取締教戒

第二 所長教戒

第三 罰等

第四 放免

第九條 成業後三ヶ年間ハ本使鑑詰ノ業ニ従事セシムル事

第十條 生徒撰用ノ節ハ親戚或ハ故舊ノ者ヲ保證人ト爲シ別紙雜形略ニ照シ證書ヲ出サシムル事

第十一條 公事ニ付旅行ノ節旅費ハ定則第十七章ニ照シ支給スヘシ但滿期差免スル時ハ當初東京出張所ニ於テ應募ノ者ハ從事ノ鑑詰製造所々在ノ地ヨリ東京迄ノ旅費額ヲ手當トシテ給ス札幌函館等ニ於テスル亦同シ

第十二條 生徒中第八條ノ犯則ニ因リ免職又ハ其年期未滿ニシテ

辭職スルキハ第十一條但書ノ手當ヲ給セサル事

第十三條 修業及從事中一等親ノ病變等アリテ一時歸省ヲ願フ者ハ往復ヲ除キ二十日内外ノ日數ヲ限之ヲ差許ス但歸省中ハ月俸半額ヲ給スヘキ事

第十四條 生徒病疾アルキハ醫藥官給タルヘシ但病氣引ノ日數十六日以上ニ及者ハ其月十五日前後ヲ區分シ二ヶ月間ハ月俸半額ヲ給シ其後ハ三分ノ一ヲ給ス故ニ病氣日數十五日ニ至ラハ必醫案ヲ副ヘ届出猶在再數日ニ及キハ六十日毎ニ更ニ其病狀ヲ具申シ若病症變換スルカ或ハ傳染病ニ罹ルキハ其時々可届出事

第十五條 醫案ニ因リ郷里又ハ他方ニテ治療スルキハ前條ニ準ス右ノ場合ニ於テハ病症ノ輕重ニ從ヒ療養ノ日限ヲ定メ願出ヘシ尤許可日限滿チ未タ全癒ニ至ラサルキハ更ニ其狀ヲ具シ延期ヲ追願スヘキ事

第十六條 修業及從事中病死ノ節ハ埋葬其他ノ入費一切官給タル
 ヘシ但親戚ノ者其遺骸ヲ請ヒ自費葬儀ヲ營ント欲ルキハ其請願
 ニ任セ遺骸ヲ棺ニ斂メ白布ヲ覆ヒ埋葬料金十圓ヲ副ヘ下賜候事
 第十七條 修業及從事中病氣ニテ荏苒滿四ヶ月ヲ過ルキハ平癒就
 業ノ日ニ至ル迄各年限ニ算入セサル事
 第十八條 從事滿期後尙奉事セント欲ルキハ其材器ニ應シ之ヲ採
 用スヘキ事

〔十四年〕七月達 物産取扱所宛

酒類及罐詰賣捌規則左ノ通相定ム

- 一本使製造各種罐詰及麥酒等ヲ賣捌ント欲ル者ハ當所販賣科ヘ直
 接引合フヘシ
- 一麥酒及罐詰類ハ請求高ニ應シ割引拂下ヘシ
- 一罐詰類蓋底膨脹スル者ハ腐敗ノ徵候ナルヲ以渡後ト雖良品ト引

換フヘシ但開罐セシ者ハ交換スルヲ得ス

- 一賣捌品ハ渾テ遞送致サスト雖拂下人ノ都合ニ因リ遞送方ヲ依頼
 スル者ハ前以届先迄ノ賃錢受領ノ上送付スベシ
- 一麥酒及諸罐詰拂下代價ハ即納スベシ尤請求者ノ都合ニ據リ一時
 ニ上納致兼ル者ハ拂下金高ニ對スル抵當公債証書ニ限ヲ出スベシ但該
 抵當ニ限九十日間ヲ期トシ取扱方ハ成規ニ據リ市中賣却相場ヲ
 以預ルベシ

○本廳

〔六年〕七月十日達

篠路村味噌醬油製造當分中止ニ付同村休泊所番人ヘ右製造所並米
 藏番兼務申付手當金十圓増給ス

〔七年〕八月十七日達

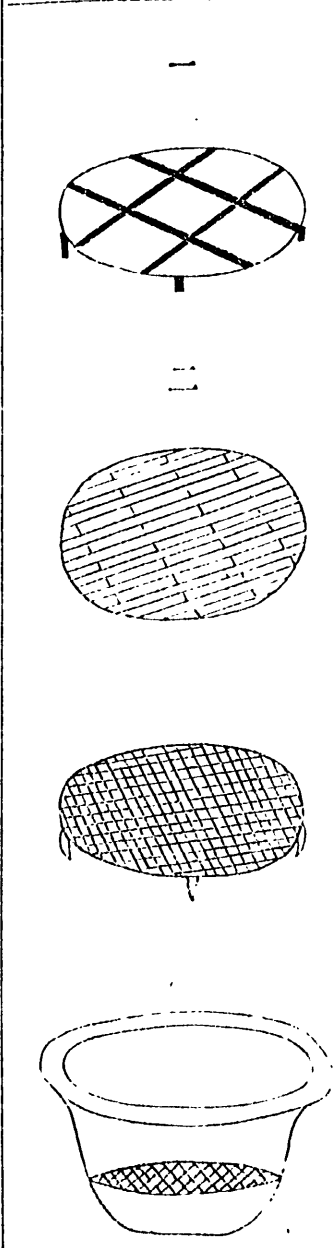
麻製方ノ儀ハ蒸製乾製等有之其製方ニ由テ手數ノ多少且品位ノ優

劣モ有之候得共舊來仕馴候製方ニ由ラスシテハ却テ損害ヲ可醸處
蒸製ニ至テハ器械無之テハ其製難成候間右ニ由テ製方致度村方ハ
器械一基ツ、貸渡可申候條一村限取調至急民事局へ申出ヘシ

〔八年〕四月二十四日〔第五百五〕達岩内小樽 詰員宛

鯡釜焚用石炭ノ儀ハ兼テ布達有之候間試驗方一層注意シ例へハ別
紙圖面ノ如キ簀子ヲ製シ釜中ニ置キ煮付サル様致サハ可然ニ付尙
實際適宜ノ見込有之候ハ、官費ヲ以試驗方取計ヘシ

(別紙)



○五月十四日〔第三百七〕達十三號

鯡釜焚用石炭ノ義兼テ相達候ニ付追々試驗漁夫共便利ヲ覺知候儀
ニ付向後焚用ノ石炭一噸六圓ノ割釜底ニ設候鐵製簀子ハ勸工課ニ
於テ製作拂下候條漁業者へ懇諭ノ上來九年入用ノ分見込取調出願
候様精々相導キ員數等申立ヘシ

〔九年〕六月二十二日〔丙第七〕達郡區 吏宛

生繭ノ儀ハ結繭ヨリ一週間内ニ蒸殺セサレハ自然上等製糸難相成
ニ付本年ハ當地製糸場内新ニ蒸殺所取設養蠶勸誘ノ爲左ノ價格ヲ
以生繭買上候條望ノ者ハ結繭速ニ手入致員數取調生繭ノ儘日限ヲ
延ハサス製糸場へ持參可致尤本年ヨリ取扱方一層勉勵致疎漏ニ不
涉様深ク注意可致段養蠶世話役共へ諭達スヘシ

上等	生繭	一升	中	等	同	上	下	等	同	上	
金	二	十	錢	金	十	八	錢	金	十	六	錢

製造

○八月十九日〔丙第百二〕達全上

今般製系機械設置ニ付市在人民勸奨ノ爲婦女齡十三歳ヨリ二十五歳迄ヲ限三十人授業候條修業志願ノ者ハ速ニ民事局ヘ願出ヘシ但修業中賄ハ官費相立其他ハ自費若技術優等ノ者ハ試験ノ上蠶業婦申付ヘシ

○九月二十一日〔丙第百六〕達

來ル二十三日製絲場並葡萄酒製造所開業式施行

同月二十二日〔丙第百七〕達勸業課宛

製絲場ニ用ル水ハ別ニ竄ヲ通シ清水ヲ引キ用ヘシ且水枿三四個据附剩水ヲ貯置キ消防備トスヘシ

○十月十八日〔乙第百二〕達

今般當地製絲場ニ繰絲機械新設候ニ付テハ毎月日曜日及臨時休業ヲ除ノ外午前八時ヨリ午後二時迄衆庶縱覽差許

〔十年〕七月十三日〔丁第三〕達 郡區 夷宛

本年繭買上相場ノ儀上州富岡其他各地方ノ價格ニ比較シ別紙ノ通相定當地製系場ニ於テ買上候條望ノ者ハ成繭ノ都度早速持參候様區内養蠶人共ヘ普ク告示スヘシ但各部ヨリ買上願出ル者ハ生繭ノ運送賃ハ官ニ於テ仕拂ヘシ

(別紙)

上等繭一升ニ付	中等	同上	下等	同上	大繭	同上
二十四錢	金二十	錢一	金十六	錢一	金八	錢

○十一月二十四日〔丙第百二〕達 製煉 課宛

製網所製革所製紙所及馬具製造所自今其課所轄申付候條右ニ關スル事務都テ勸業課ヨリ受取ヘシ

○十二月十八日〔丙第百〕達 勸業 課宛

上州水沼驛製紙場留學ノ工女二十二名今般歸籍ノ筈ニ付右ハ其課

製造

ニ於テ管理スヘシ

〔十一年〕九月〔丙第二〕達
〔十七號〕

官民日用物品中凡別記ニ掲ル者等ハ當道産ヲ以之ニ充テ可成丈他ノ輸入ヲ仰サル様可致見込ヲ以製方並費額取調且從來試験ヲ經タル分ハ勿論新製ヲ要スル品目等詳細分類可差出尤目下著手可相成分ト漸次施設スヘキ分トハ實際ニ就キ其緩急得失ヲ審査用度課ヘ協議可伺出但別記ハ其大概ニ付茲ニ掲ケサル分ト雖猶篤ト調査ヲ加ヘ可申且品目中支廳等ノ製出ニ係ル者ハ之ヲ流用スル等便宜處分スヘシ

（別記）

味噌、醬油、酢、洋酒類、種油、白絞油、蠟燭、石炭油、半切紙、塵紙、石灰、
鹽、陶器、漬物類、網類、並網糸 以上製煉課
大豆、小豆、真綿、絹糸 以上勸業課

疊、同表、葎、薄緣、釘、鉄鍋、釜、塗物、草履、草鞋、下駄、雪踏
以上營繕課

〔十二年〕五月六日〔丁第二〕達
〔十八號〕

靜内郡移住人民農業勸奨ノ爲藍麻製造取扱規則別冊ノ通相定本年ヨリ施行

（別冊）

靜内郡藍麻製造取扱規則

第一章 總則

第一條 此規則ハ靜内移民農業ヲ翼成セン爲稻田邦植カ資金出貸ノ請願ヲ許可シ其保護ヲ加ヘ結果ヲ得セシメンカ爲ニ施行スル者ナリ

第二條 資金ヲ借テ藍及麻ヲ製造シ輸出販賣セント欲ル者ハ總テ此規則ニ照シ處分スル者トス

第三條 靜内ハ海陸運輸ノ便未タ備ハラズ荷嵩ノ農産ハ輸送費用多ク之ヲ勸奨スルモ其得失償ハサルカ故ニ藍及麻二品ニ限資金ヲ貸與スル者トス

第四條 藍作ハ移民ノ慣手ニシテ麻ハ未熟ノ業トス故ニ實施ノ難易ヲ計較シ先專ラ藍作ニ從事セシメ麻ハ漸次ニ耕種セシムヘシ
第五條 此規則ハ靜内移民ノ爲ニ創定セシ者ナレハ靜内移民地ニ單行スヘク他ノ地方ニ及ス可ラス

第二章 耕作人心得

第六條 凡植物ハ專ラ耕鋤培養ノ精粗ニ因テ成育結果ノ異ルハ普通ノ理ナリ就中藍及麻ハ最培養ノ力ニ頼ル者ナレハ播種季節耘鋤ノ度數肥料ノ多寡刈穫ノ遲速等極テ注意セサル可ラス

第七條 若耕鋤培養不注意ニシテ粗惡ノ收穫ニ至ルハ獨自家ノ損失ニ止ラス遂ニ本郡農産ノ聲價ヲ墮ス其關係容易ナラス故ニ

其品位ヲ鑑査シ不良ト認ル者ハ買上爲サル事アルヘシ

第八條 耕鋤法ヲ研精シ培養ノ利ヲ講究シ互ニ改良進歩ニ注目シ其發明便方ニ係ル者及蟲害其他耕産ヲ妨ケ豫防ニ苦ム等ハ速ニ區務所ヲ經テ勸業課ニ具申シ俱ニ本邦ノ公益ヲ圖ルヘシ

第九條 管廳ノ保護ニ頼リ種子ヲ他方購求セント欲ル者ハ翌年播種段別及數量ヲ豫算シ每歲七月三十一日限區務所ヲ經テ勸業課ニ申請シ其指揮ヲ受ヘシ

第十條 每戸栽培段別及下種季節等各自詳細調査シ每歲五月三十一日限製方人ニ報告シ製方人ハ之ヲ纏メテ六月十五日限區務所ニ具申シ區務所ハ勸業課ニ申報スヘシ

第十一條 種子購求順叙ハ第九條ノ如シト雖勸業課ノ都合ニ依リ期日及申請手續等臨時管内ニ廣告スルルハ總テ一般ノ順叙ニ照準スル者トス

第三章 製方人心得

第十二條 凡製方ノ精粗ハ原質ノ良否ニ由ト雖亦製煉ノ如何ニ關係スル論ヲ俟ス故ニ製方人ハ專ラ此點ニ注意シカテ良品ヲ得ルヲ期シ苟粗造濫製ス可ラス

第十三條 若製方人ノ不注意ニ出カ又ハ故造シテ葉藍ノ良否生麻ノ長短ヲ撰ハス混同濫製スル等ノ行爲アルキハ價格減却シテ自家ノ破産ヲ招クノミナラス其影響忽農家ノ進路ヲ妨害スルカ故ニ右等ノ場合ニ於テハ區務所ヨリ直ニ製方ヲ停止シ事由ヲ勸業課ニ申報スル事アルヘシ

第十四條 製方人ハ本郡在籍ノ者又ハ滿二年以上斷ヘス寄留ノ者ニシテ相當ノ財産ヲ有シ起業ノ目的維持ノ方法等區務所ヲ經テ勸業課ノ認可ヲ得ル者ニ限ヘシ

第十五條 製方ノ爲雇入ル教師ハ其貫籍姓名年齡履歷俸給及結約

期限等ヲ詳記シ區務所ヲ經テ勸業課ノ認可ヲ受ヘシ其解約ノモ速ニ届出ヘシ

第十六條 製方人藍麻買入ノキハ相當ノ評價人ヲ撰定シ日ヲ刻シテ區務所ニ報告シ調査所ニ集會シテ現品ヲ鑑査シ相對公價ヲ附スヘシ其製品ノ善惡販賣ノ損益等ハ耕作人ニ於テ一切關係ナカルヘシ

第十七條 藍靛製方所ハ漸次産出蕃殖ニ隨ヒ増設スヘシト雖當分郡中ニケ所ニ限ル者トス

第十八條 麻ハ各自ニ製方スルモ又ハ共同製麻所ニ設立スルモ人民適宜ニ任スヘシ

第四章 販賣順序

第十九條 管廳ノ保護ニ賴リ藍靛及製麻ヲ輸出販賣セント欲ル者ハ第四章各條ノ順序ニ遵フヘシ

第二十條 藍靛ハカテ多量ノ製方ヲ期シ品位ノ優劣數量ノ多寡ヲ
査定シ輸出版賣ノ季節ニ臨ミ製方人ヨリ區務所ヲ經テ勸業課ニ
請願スヘシ

第二十一條 區務所ニ於テハ製方人査定スル所ノ藍靛品位及數量
ヲ再查シ確認セシ憑證ヲ添之ヲ勸業課ニ申報スヘシ

第二十二條 勸業課ニ於テハ區務所ノ申報ヲ得ハ豫テ結約スル所
ノ藍靛賣捌所ニ報告シテ販賣ノ順叙ヲ爲シ更ニ課員ヲ本郡ニ派
遣シテ輸出ノ手續ヲ了スヘシ

第二十三條 製麻ヲ輸出版賣セント欲ル者其品位數量ヲ査定シ勸
業課ニ請願スル等總テ藍靛ト一般ノ順叙タルヘシ

第二十四條 勸業課紡織場需用ノ藍靛及製煉課製網所需用ノ製麻
ハ豫メ其數量ヲ算定シ之ヲ區務所ニ照會シ適宜買上ル事アルヘ
シ

第二十五條 輸出ニ係ル藍麻ハ商機ヲ失セス販賣ノ順叙ヲ爲ハ勿
論ト雖製品ノ多寡又ハ他ノ事故アリテ速ニ輸出シ難キ場合ニ於
テハ一時區務所ニ交付シテ保管セシムル事アルヘシ

第二十六條 販賣代價ハ勸業課ニ於テ領收シ之ヲ區務所ニ遞致シ
テ直ニ製方人ニ交付セシムヘシ

第二十七條 輸出版賣ノ順叙管廳ノ保護ヲ加ル前各條ノ如シト雖
航路ノ保險及代價ノ損失等總テ管廳ニ於テ關係セサルヘシ

第五章 資金出納ノ順序

第二十八條 資金ハ稻田邦植ヨリ出貸スル所ノ三千五百圓ヲ原額
トシ之ヲ區務所ニ交付シテ其綜理ヲ爲サシム

第二十九條 資金ヲ借用セント欲ル者ハ第五章各條ノ順叙ニ遵フ
ヘシ

第三十條 製方人ハ毎戸播種ノ段別ニ應シ其收穫ノ多寡ヲ豫定シ

葉藍及生麻ノ價格ヲ見積該金高ノ半額以內借用願書ヲ添テ區務所ニ請願スヘシ

第三十一條 區務所ハ其願書ヲ受理シ豫算ノ數量及價格ヲ審査シ確實ト認ルルハ見積代價ノ半額迄ヲ限製方人ニ貸與シ其都度勸業課ニ申報スヘシ

第三十二條 製方人ハ毎戸播種段別收穫多寡ニ割當豫算代價半額迄ヲ限資本トシテ耕作人ニ前貸シ其都度區務所ニ届出ヘシ

第三十三條 耕作人ハ藍麻收穫後資本ヲ借受タル製方人ニ賣渡製方人ハ前貸ノ金額及利息ヲ加除決算シ殘金ハ耕作人ニ拂渡ヘシ
第三十四條 前條拂渡ノ節若出金差支タルハ製方人ハ更ニ區務所ニ請願シテ借用ノ順序ヲ爲シ區務所ハ之ヲ審査シテ貸付ヲ了シ勸業課ニ申報スヘシ

第三十五條 製方人ハ製方藍麻ヲ販賣シ其代金ヲ受取ルハ日數十

日限精算シ資金及利息ヲ合テ區務所ニ完納シ區務所ハ之ヲ勸業課ニ申報スヘシ

第三十六條 資金出貸ノ額ハ當分三千五百圓ヲ限貸付ノ期限ハ藍麻播種ノ後タルヘシ利子ハ一圓八厘ノ割ヲ以徵收スヘシ

第三十七條 資金ハ年限ヲ定メス利子ヲ蓄積シテ償却スルノ順序ナレハ區務所ハ利金ヲ原額ニ組其利子ニ當ル金高ヲ原額内ヨリ支出シ稻田邦植ニ還付スヘシ每歲此順序ヲ爲シ漸次利子ノ金高増殖シテ資金原額即三千五百圓ニ滿ルルハ償却全ク了タルヲ以則公有資金ト稱スヘシ

第三十八條 資金貸與額及利息高其他稻田邦植ニ償却ノ員數ハ極テ詳悉明瞭ヲ要スル者故區務所ニ於テ每歲出納一覽表ヲ製シ之ヲ製方人耕作人ニ公示シ且勸業課ニ申報スヘシ

第三十九條 共有資金ハ全ク藍麻製方ノ事業ニ賴リ生スル所ノ公

益金ナレハ之ヲ支消スルモ必共同公評ヲ遂ケ區務所ノ意見ヲ附シテ勸業課ノ指揮ヲ受ヘシ

第四十條 資金貸付後非常ノ天災ニ際シ耕産不熟元利償却ノ途ナキハ其事情ヲ具シテ勸業課ノ指揮ヲ請フヘシ

〔十四年〕四月二十八日〔達甲第七〕〔十二號〕布達

本使檢印濟ノ魚粕絞筒自儘ニ修覆ヲ加ヘ又ハ使用ノ節別ニ梓様ノ物ヲ添ル等總テ量目ヲ増減スル儀一切相成ラス

○函館支廳

〔五年〕四月三十日〔第三〕布達

今般茂邊地村ヘ煉化石並瓦製造場建築ス

〔六年〕七月十二日〔第三百〕布達

今般上州富岡ニ於テ製糸修業トシテ十二歳以上十四歳以下ノ女子差遣候ニ付當支廳管内ヨリ五名人撰派遣ノ管候條管内無洩布達本

本年十一月四日六號ヲ以テ富岡製紙修業望ノ者ハ來ル二十五日迄ニ類出ヘキ旨ヲ達ス

月ヲ限姓名年齢共取調申出ヘシ

〔十一年〕七月九日〔第六十一〕達

當地製革所規則左ノ通假定

製革所假規則

第一條 製革所ハ民事課勸業係ニ於テ一切ノ事務ヲ管理ス

第二條 製革備人等級及月俸左ノ如シ

一等雇准	同上	二等雇准	同上	三等雇准	同上	四等雇准	同上	五等雇准	同上
金十五圓	金十二圓五	金十圓	金八圓五	金七圓五	金六圓五	金五圓五	金五圓	金四圓五	金四圓

第三條 前條ノ通定ムト雖技術拔群ニシテ教師トモ爲ヘキ者ヲ採用スル時八月俸増額ヲ給スヘシ

第四條 凡製革ノ業ハ專ラ着實精巧ヲ主トシ勸業係ノ内製革事務取扱ハ平常該所ニ出勤シ諸雇人ヲ獎勵シ注意懇到以事業ノ進歩ヲ圖ルヘシ

第五條 勸業課製革事務取扱ハ雇人ノ員數及諸仕入品遣拂ノ數量

代價仕上ノ全額等ヲ詳記シ器械及備品等ニ關スル事ハ其授受増

減明細表ヲ製シ翌月初メ之ヲ本課ニ差出各自事業損益損失ヲシ

テ一目瞭然ナラシムルヲ要ス

第六條 雇人等虛弱怠惰若クハ不行跡等ノ事故アラハ該所事務取

扱ハ直ニ其旨ヲ本課ニ通報シ至當ノ處分ヲ請フヘシ

第七條 勸業係官員ハ時々製革所内ヲ巡視シ一切ノ事ヲ點檢シ專

ラ其便宜ヲ得セシムヘシ

第八條 勸業係製革事務取扱ハ務テ雇人及諸物品ヲ節用スルニ注

意スヘシ

第九條 製革ニ用ル諸器械物品ノ取締ハ專ラ諸雇人ノ責ニ任スル

ヲ以散亂毀損等無之様精々注意スヘシ

第十條 就業時間ハ毎日十時間ト定メ日ノ長短ニ隨テ揭示スヘシ

ト雖午前十時ヨリ二十分正午十二時ヨリ三十分午後三時ヨリ二

十分休息スヘシ但事業急ヲ要スル場合ハ此限ニ非ス

第十一條 休日ハ歲始歲末ノ休暇祝日祭日札幌神社祭日毎日曜日

トス

第十二條 火ノ元ニ注意シ清潔ヲ主トシ掃除ヲ怠ル可ラス

〔十二年〕一月二十八日〔第九號〕布達

管内ニ於テ製造ノ氷東京及横濱等へ輸送ノ節ハ添翰交付スヘキニ

付輸送前豫メ氷ノ噸數並製造ノ場所ヲ記載シ其旨必願出ヘシ

○九月五日〔第六十一號〕達

燐枝製造所規則左ノ通假定

燐枝製造所假規則

第一條 燐枝製造所ハ民事課ニ於テ之ヲ管理シ平常事務取扱各員

ハ該所ニ出勤シ諸雇人以下ノ勤怠ヲ監督スヘシ

第二條 一時雇及小使 日給月給ノ別ナク工業ニ關セサル者 進退ハ本課ヲ經テ具狀シ

工業ニ關スル諸職工ノ増減ハ該所事務取扱各員協議決行スヘシ
ト雖其重事ニ互ル者ハ本課ニ協議シテ増減スヘシ

第三條 工業人ノ給額ハ各自其事業ノ巧拙ニ因リ製品ノ多寡ヲ以テ給與スヘシ但金員授受ノ間錯亂ノ憂ナキ様一目瞭然ナルヲ要ス

第四條 雇人等虚弱怠惰若クハ不行跡等ノ事故アラハ該所事務取扱主任ヨリ直ニ其旨ヲ本課ニ通報シ至當ノ處分ヲ請フヘシ

第五條 本課官員ハ時々製造所内ヲ巡視シ一切ノ事ヲ點檢シ專ラ其便宜ヲ得セシムヘシ

第六條 諸器械物品ノ散亂毀損等無之様精々注意スヘシ但全工業人ノ等閑ヨリ生スル原因詳明ナルハ本課ニ通報シテ相當ノ處分スル事アルヘシ

第七條 就業時間ハ日ノ長短ニ依リ時々揭示スヘシ

第八條 年中休日 之略

第九條 火ノ元ニ注意シ清潔ヲ主トシ掃除ヲ怠ル可ラス
〔十三年〕二月二十一日 〔第十〕 布達 〔五號〕

十二年ニ本使乙第一號氷貯藏取締規則布達相成候ニ付テハ處分方手續左ノ通相定

製氷貯藏取締手續

第一項 清淨ノ河泉池沼等ニ於テ製氷ヲ營業セントスル者ハ九月ヨリ十月迄ニ其地名ヲ詳記シタル河泉池沼及溜水場構造等ノ明細圖三葉ニ戸長ノ奥書ヲ添テ出願スヘシ

第二項 第一項ノ手續ニ依テ出願スレハ係官吏實地へ派出溜水場ノ構造原水灌漑ノ模様等ヲ檢討シ不都合ナキニ於テハ原水 ルビ 空 ル 本程 十 爲差出分析審査ノ上許可スヘシ但許可ハ一期 甲年九月 乙年 八月

マヲ以限トス期限後尙ホ營業セントスル者ハ更ニ第一第二項ノ手續ヲ經ヘシ

第三項 製氷ヲ貯藏セントスル者ハ豫メ其貯藏場ノ地名及倉庫等ノ明細圖二葉ニ戸長ノ奥書ヲ以テ出願スヘシ

第四條 第三項ノ手續ニ依テ出願スレハ係官吏ヲ實地へ派出シ貯藏場ノ構造等ヲ檢討シ不都合ナキニ於テハ許可スヘシ但許可ハ

一期^甲年十一月ヨリ^乙年十月マテトス期限後尙ホ貯藏セントスル者ハ更ニ第三第四項ノ手續ヲ經ヘシ

第五項 製氷ノ場所及製氷貯藏ノ場所へハ警察官吏又ハ係官吏時々巡視シ假令許可シタル場所ト雖有害不潔ノ掛念アルハ十二

年乙第號本使布達第三條第四條ノ處置ニ及フヘシ
第六項 前各項ノ手續ヲ經タル製氷ヲ輸出セントスル者輸出ノ噸數積載ノ船名仕向場及受領人名ヲ詳記シタル願書ヲ差出輸送鑑

札ヲ受ヘシ

第七項 前各項ノ手續ヲ經タル製氷ヲ地方ニテ販賣セントスル者ハ左ノ看板^之ヲ製シ差出烙印ヲ受門戸ニ掲クヘシ但看板ハ卸賣人ニ限ヘシ

○根室支廳

〔八年〕三月四日〔第四〕布達

札幌本廳ニ於テ農具器械牽馬具ノ類製造ニ付牛馬斃死有之節ハ左ノ代價ヲ以買上候條皮剥取方精々念入粗疎無之様致ヘシ

價代枚一皮		牛		馬	
上	等	上	等	上	等
1000	500	1000	500	1000	500
中	下	中	下	中	下
500	250	500	250	500	250

○十二月二十日〔第五〕達

斃牛馬皮買上ノ儀兼テ相達置候處今般左ノ代價ノ通其品位ニ應シ

製造

買上候條斃牛馬有之候節ハ剝取ノ上届出候ヘハ札幌本廳物産局へ
遞送品位検査ノ上代價下渡ヘシ

種類	牛			馬		
	皮一枚	爪一組	角	皮一枚	爪一組	尾
上等	二五〇〇	一五〇	一〇〇	一七五〇	七五〇	〇四〇〇
中等	一七五〇	〇八〇	〇六〇	一〇〇〇	一〇〇	〇二〇〇
下等	一〇〇〇	〇五〇	〇四〇	七〇〇	〇八〇	〇一五〇
						〇〇八

〔十一年〕十二月七日〔第四十〕〔六號〕達

過般藤野伊兵衛其方面漁業資金貸與ノ節同人ニ相達置候趣モ有之
候ニ就テハ舊習ヲ脱セス各自獨立稼業ニ勉勵セル義ヲ拒ミ從來ノ
習風ヲ以漁業等ニ雇役候テハ不都合ニ付右等ノ義無之様兼テ注意
シ專ラ舊土人共一己ノ業ニ安シ候様獎勵可致ハ勿論ニ候得共素ヨ
リ無知文盲ノ舊土人ニシテ一家資産維持ノ道ヲ教諭スル容易ナラ
スシテ他ノ人民ト同視ス可ラス唯其易キヨリ誘導シ漸次一變セシ

ムル現今ノ急務ニ候間今般アツシ皮並シナ皮外皮ヲ細密ニ削去精
良ニ製シタル者多數入用ノ義有之時機ニ據リ買揚ノ筈ニ付其方面
ニ於テ一己一ヶ年取獲高及一貫目ニ付何程ノ原價ニ可及カ巨細取
調至急可申出然シテ買上ノ際ニ至テハ所謂家産ノ補助ニ相成候義
ニ付懇諭ノ上精勵製治候様可致且是迄當廳ニテ土木興業ニ雇役ス
ル舊土人ハ交代トシテ今般差返シ先規ノ通更ニ人撰ノ爲森田辰藏
差出候間協議ノ上望ノ者可差出是以テ漁業等ノ雇役ニ比較スルニ
雇錢ノ多少判然タル義ニシテ即チ其易キヨリ誘導スルノ一端トス
ヘシ

〔十二年〕十月二十五日〔乙第二〕〔十二號〕達 民事課宛

其課中鑑詰係ヲ置鑑詰一切ノ事務管掌

〔十三年〕一月十九日達

厚岸鑑詰所諸般ノ事務是迄民事課於テ整理取計來候處遠隔ノ場合

往復ニ數日ヲ消シ事々延滞不少候條自今厚岸分署ト協議事務整理致ヘシ

○十月達

別海鑛詰所鑛詰係分掌科目別紙ノ通相定

(別紙)

庶務

理事報告

監察雜務

主計

收支調度

販賣倉庫

庶務

第一條 庶務部ヲ分テ理事監察報告雜務ノ四科トス

第一節 理事ハ鑛詰製造ニ係ル諸般ノ事務ヲ整理シ各廳各課各製造所ヘ對シ公書往復ヲ掌リ或ハ諸規則ヲ編製シ經同上申ノ事

第二節 監察ハ臨時鑛詰製造所ヲ巡回シ親ク作業ノ實況ヲ視察

シ利害得失ヲ考ヘ其改良ヲ加フヘキ者ハ該所ノ主務者ニ詢リ直チニ履行シ或ハ經同上申ノ後之ヲ行ヒ其景況成績ヲ報告スヘキ事

第三節 各鑛詰製造所製造上ノ景況功績其他緊要ノ件々ヲ編成報告スヘキ事

第四節 雜務ハ鑛詰製造上ニ係ル諸雜務ヲ可取扱事
主計

第二條 主計部ヲ分テ收支販賣調度倉庫四科トス

第一節 收支ハ各所製造上經費報告販賣收入等ヲ審查シ其他金員計算ニ係ル事務ヲ可取扱事

第二節 販賣ハ各所製造鑛詰ヲ各廳各所ニ輸出販賣スルヲ掌リ常ニ品位商況等ヲ熟察スヘキ事

第三節 調度ハ鑛詰製造ニ關スル諸器械需用物品等ヲ購シ之ヲ

製造

倉庫科ニ可引渡事

第四節 倉庫科ハ已ニ調度科ニ於テ購スル諸器械及製造詰物品
ヲ受取り常備倉ニ藏メ各所ノ要求ニ應スル事

各罐詰製造所内分掌ヲ定メ事務ヲ四科ニ分ツ其次第左ノ如
シ

第一條 生徒取締ハ生徒ノ勤惰ヲ監督シ其他諸般ノ事務ヲ管掌ス
ル者トス

第二條 事務ハ各所ノ往復文案及報告編成等ヲ專務トスト雖凡テ
生徒取締ト商議ノ上管掌スル者トス

第三條 調度ハ一切ノ需用物品ヲ始メ製了罐詰ノ出納ヲ專トシ傍
ヲ毀損ノ器具欠乏ノ物品要求等ノ事務ヲ扱フ者ト雖凡テ生徒取
締ト商議スヘシ

第四條 技術監視ハ生徒取締ト商議シ專ラ生徒事業ノ巧拙器械ノ

精粗品位ノ如何ヲ監察スヘシ

同月達

各罐詰所場内規則舍監規則及夜學規則別紙ノ通相定

(別紙)

罐詰所内現術生徒心得

第一條 出場ハ起業時間五分前タルヘシ但已ヲ得サル事故アリテ
遅參スル時ハ其事由ヲ生徒取締ニ告ケ許可ヲ經テ業ニ就クヘシ

第二條 出場シタルキハ事務所ニ到リ出勤簿ニ捺印スヘシ

第三條 病氣事故アリテ不參ノ節ハ其趣ヲ書面ニ認メ起業前ニ可
届出但就業中急病ヲ發スルキハ技術監視ニ告ケ退場スルヲ得ヘ
シ

第四條 製造ノ事業ハ總テ技術監視ノ指示ニ從フヘシト雖事故ア
ルキハ高等生徒ヲシテ代理セシムル事アルヘシ但生徒取締及諸

製造

役員ヨリ臨時命令ズル亦同シ

第五條 敬禮スヘキ人ノ場内ニ入ルハ諸役員及技術監視ノ指揮ニ從テ默禮ヲ行フヘシ

第六條 事業上ニ我意ヲ主張シ猥ニ異見ヲ述ヘカラス但不審ノ件アラハ技術監視ノ指揮ヲ受ケ懇ロニ質問スヘシ

第七條 就業中猥ニ席ヲ離レ及雜話吸烟ス可ラス但休憩時間ハ此限ニ非ス

第八條 諸器械物品ハ鄭重ニ取扱破損セサル様可致但破損スル者ハ其次第二ヨリ之ヲ償ハシム

第九條 諸器械物品ハ各自擔當ノ外猥ニ取扱又ハ他所ニ持參スルヲ許サス

第十條 事業時間外猥ニ場内ニ入ヘカラス
第十一條 出火其他非常ノ際ハ即時出頭スヘシ

第十二條 場内ハ都テ清潔ニシテ猥雜ナル可ラス但木履ヲ穿キ場ニ入ヲ許サス

第十三條 火ノ元ニ注意スヘシ
第十四條 參退場及食時ノ節ハ撃拆或ハ喇叭ヲ以左ノ通報知スヘシ

撃拆區別左ノ通但喇叭ヲ用ルキハ別ニ區分セス

撃拆	十聲	出勤
同	五聲	起業
同	三聲	喫飯
同	五聲	午後起業
同	三聲	休業
同	十聲	退參
右ノ條々固相守可申事		

舍監及副舍監心得

第一條 舍監ハ一室ニ一名ト定ム室内生徒ノ取締ト心得ヘシ

第二條 副舍監ハ一室一名ト定ム舍監事故アルハ之ニ代理或ハ補助スル者トス

第三條 舍監副舍監ハ舍則ニ遵ヒ各自受持生徒ノ雜事ヲ管シ常ニ勤惰ヲ察シテ室内ノ安寧ヲ圖ルヘシ

第四條 舍内ノ安寧ヲ圖シカ爲各正副舍監及舍中會計取扱者ト時々會議ノ上適宜一定ノ方法ヲ設ケ或ハ改正スル事アルヘシ但其都度生徒取締ニ通告スヘキ者トス

第五條 生徒中諸規則ニ反スル者アルハ懇篤教戒スヘシト雖若之ヲ用ヒサルハ其事由ヲ具シ生徒取締ニ通告スヘキ者トス

舍則

第一條 在舍中ハ郡^都テ舍監ノ指揮ニ從フヘシ

第二條 舍則ヲ確守シ言語ヲ慎ミ互ニ信義ヲ以交リ苟モ官費生徒ニ恥ヘキ所行アル可ラス

第三條 晨起ハ春分ヨリ秋分迄午前第五時秋分ヨリ春分迄午前第六時タルヘシ

第四條 晨起後直ニ衾蓐ヲ收メ室内ヲ掃除シ醜惡不潔ノ事アル可ラス但此時限ヲ凡三十分時間トス

第五條 日々修業ノ後遊歩スル者ハ午後十時ヲ限歸舍スヘシ若不得已事故アリテ遅刻スルハ該家ノ證書ヲ持參スヘシ但夜ノ長短ニヨリ伸縮増減スル事アルヘシ

第六條 休暇中ノ遊歩ト雖一里以外ニ至ルハ其旨ヲ書ニ認メ舍監ノ認可ヲ得テ更ニ生徒取締ニ届出テ許可ヲ請フヘシ但歸舍時間ハ前同斷

第七條 遊歩ハ鬱氣ヲ散シ身體ヲ強健ニナシ兼テ智覺ヲ廣ル爲ナ

レハ他ノ業ヲ妨ケ或ハ不品行ヲナシ自己ノ身體ヲ害スル等ノ所業アル可ラス

第八條 篤志ニ出テ有益ノ書類及筆算等ヲ勉勵スルハ最好スヘシト雖讀書ハ午後十時限トス但默讀ハ此限ニ非ス

第九條 病氣或ハ事故アリテ製造場へ不參スル者ハ其旨趣ヲ同舎ノ舎監ニ告ケ認印ヲ得テ屆書ヲ事務所へ差出スヘシ

第十條 當分自己必需ノ衣服物品等ヲ購セント欲ルハ其事實ヲ舎監ニ告ケ之カ所辨ヲ請ヘシ但休憩中ハ時宜ニヨリ一二ノ生徒ヲ總代トシテ數里ノ地ニ至ラシメ購買ヲ所辨スル事アルヘシ

第十一條 舎内ノ條品等破損ス可ラス但破損セシトハ其由ヲ舎監ニ告ケ處分ヲ請ヘシ

第十二條 近邊出火其他非常ノ節ハ何時ニ限ラス出場スヘシ

第十三條 燈火並ニ火鉢燐枝等總テ火ノ元ニ意ヲ加ヘ嚴重ニ取扱フヘシ

第十四條 已ヲ得サル事故ノ外猥ニ他室ニ入ヘカラス

第十五條 傳染病或ハ重病ニ罹者ハ醫員ノ指揮ニ依リ退舎入院セシム

第十六條 相對ニテ金銀及衣服ヲ猥ニ貸借ス可ラス

第十七條 喧嘩口論又ハ急險ノ器具無益ノ物品等ヲ取扱ヘカラス

第十八條 藥用ノ爲酒ヲ服スルハ已ヲ得スト雖恣ニ之ヲ服シ放歌醉吟ハ勿論他人ノ自由ヲ妨ヘカラス

第十九條 月給ハ毎月事務係ヨリ受取食料費ハ其内ヨリ支辨スヘシ

第二十條 舎監ノ指揮ヲ受ケ毎月數回舎ノ内外ヲ大掃除スヘシ

第二十一條 來訪者アルトハ其由ヲ舎監ニ告ケ許可ヲ得ヘシ但官員或ハ生徒或ハ患者ニシテ醫員ヲ乞トハ此限ニ非ス

夜學略則

第一條 教科ヲ分テ口授、問答、講述、讀書、算術ノ五課トシ專ラ鑛詰
修業ノ裨益トナルヘキ諸件ヲ口授スルヲ以テ旨趣トス故ニ讀書
算術ノ二科ハ生徒ノ望ニ隨ヒ適宜就學セシムヘシ但教課入用ノ
書器ハ一切生徒ノ自辨タルヘシ

第二條 口授課ハ教師口授スル所ノ各種鑛詰方及類似ノ諸製造方
ヲ筆記シ毎七日若クハ十日間内外ニ添刪淨書シ之ヲ教師ニ差出
シ批判ヲ請ハシム但口授ヲ筆記シ難キ者ハ其大要ヲ腦裏ニ記置
キ毎七日内外教師ノ口授シタルル之ヲ口述セシム

第三條 問答課ハ已ニ教師ノ口授シタル製造方或ハ現ニ從事セル
術業上ニ於テ問ヲ發シ生徒ヲシテ之ニ應答セシメ又ハ問題ヲ揭
示シテ其答ヲ筆記セシム

第四條 講述課ハ製造書經濟書時トシテハ開拓雜誌水産雜誌等ニ

就テ要件ヲ講義シ生徒ヲシテ之ヲ聽記セシメ時々問題ヲ出シテ
應答セシム

第五條 讀書課ハ每週數回簡易ノ諸製造書讀方意義ヲ教授シ若ク
ハ獨見シテ不審ノ件ヲ質問セシム但本課ニ就クト否トハ生徒隨
意タルヘシ

第六條 算術課ハ每週數回近易ナル和洋算術ヲ教ヘ或ハ宿題ヲ出
シ答記ヲ作り每週内外ニ之ヲ教師ニ出シ可否點檢ヲ請ハシム但
書同前

〔十四年〕三月達

鑛詰係章程分掌別紙ノ通更正

(別紙)

所長

事務現術其他百般ノ事ヲ總理シ皆其責ニ任ス

製造

生徒進退黜陟ハ試術ノ上之ヲ具狀スヘシ

生徒取締

生徒一切ノ取締ヲ爲シ平素行狀事業ノ勤惰等ヲ監視シ誘掖督勵スル事ヲ掌ル

同心得掌取締ニ亞ク

技術監視

業場ニ在テ生徒技術巧拙ヲ監シ諸器械精粗品位良否ヲ檢スル事ヲ掌ル

同心得掌監視ニ亞ク

事務

公文往復金錢出納報告編纂製造需用ノ物品製了罐等一切ノ事務ヲ掌ル

同心得掌事務ニ亞ク

○四月達

罐詰賣捌規則別紙ノ通相定

(別紙)

罐詰類賣捌假規則

第一條 諸罐詰賣捌人ハ當分ノ内根室厚岸兩所ニ於テ各二名ヲ限之ヲ許可スヘシ

第二條 罐詰賣捌請願者ハ別紙甲乙書式之略ニ倣ヒ正副二通ヲ作り

郡役所ノ奥書ヲ得テ支廳ヘ願出但受理ノ上許可スヘキ者ニハ其旨朱書割印シテ一通ヲ本人ヘ下付スヘシ

第三條 郡役所ハ第四條ニ掲ル財産所有者ニ非レハ奥書調印ヲ與フ可ラス

第四條 賣捌人ハ勿論保証人共必其居住地實價千圓以上ノ財産所有者ニ非レハ免許ス可ラス

第五條 罐詰代價追納ヲ以拂下ヲ願フ者ハ第四條ニ掲載スル財産ノ内抵當ヲ差入ヘシ但本條抵當品事故アリテ無効ニ屬スル時ハ更ニ保証人ヨリ其價格相當ノ抵當品ヲ換入スヘシ

第六條 許可ノ上ハ本人保証人共原籍國郡住所姓名職業上明記シタル左ノ印鑑之略ヲ支廳罐詰係ニ差出スヘシ

第七條 賣捌許可ノ上ハ必販賣者ノ店頭ニ左ノ看板之略ヲ掲クヘシ但假名ヲ加ル如キハ便宜ニ任スヘシ

第八條 諸罐詰賣捌人へ拂下高ハ當分ノ内豫メ一ケ年左ノ罐數ヲ定限トシ割合ノ上之ヲ下渡ヘシ但製造ノ都合ニ依リ増減アルハ其時々罐詰係ヨリ告示スヘシ

鮭二萬二千罐 鱒三千四百罐 蠣二萬六千四百罐

第九條 免許賣捌人ハ通牒ヲ製シ入用ノ員數ヲ記載シ捺印ノ上支廳罐詰係へ願出現品ヲ受取ヘシ

第十條 罐詰類願受ノ節ハ精々注意シテ之ヲ請取ヘシ授受ノ手續ヲ了セシ後腐損或ハ膨脹ノ錯雜有之共罐詰係ニ於テハ一切關係之ナキ者トス但貯蓄ノ後開函ノ際腐敗ノ罐詰見認其儘届出ルニ於テハ點檢ノ上交換付與スル事モアルヘシ

第十一條 罐詰各種賣捌人へ拂下原價ハ左ノ割合タルヘシ但製造需用物價昂低及運費多少ニ依リ原價ニ影響ヲ生スルハ其時々罐詰係ヨリ通達スヘシ

定 量	一 部	一 部	一 部
鮭	鱒	牡蠣	鮭
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

第十二條 賣捌人ニ於テ第十一條ノ原價ヨリ一割五分以外ヲ超過シテ販賣ヲ許サス



第十三條 代價即納ノ者追納ノ者共金員納付ノキハ簿册ニ金額ヲ記載シ其時々鑑詰係或ハ鑑詰所ノ割印ヲ受ル者トス

第十四條 代價追納ニテ拂下ノ者ハ賣捌有無ニ拘ハラズ下付シタル日ヨリ五月ヨリ十月ハ六十日間 四月ヨリ九月ハ九十日間ヲ限徵收スヘシ若延滞期限ヲ愆ルキハ抵當品ヲ公賣シ償還セシメ剩餘アルキハ却下スヘシト雖不足ノ節ハ日限後十日限保証人ヨリ辨償セシムヘシ但代金ニ滞アル間ハ次回ノ交付ヲ許サ、ル者トス

第十五條 代價即納ニテ百圓以上ヲ拂下ル者ハ金高ノ一割追納ニテ同斷ノ者金高ノ二分五厘割下ヘシ

第十六條 賣捌於テ若此規則ヲ犯シ又ハ不正ノ所業ニテ妨害ヲ爲ス者ト確認スルキハ直ニ賣捌ヲ差留代價ハ即納申付若淹滞スルキハ差留後三日限保証人ヨリ辨償セシムヘシ

第十七條 免許賣捌人ハ該規則一部ヲ付與スヘシ

○運輸

陸運

○開拓使

〔二年〕十月布達

遞驛

四年四月布達ヲ以テ荷物ハ道路險惡人馬弱ニ付人足一人持五貫目馬一匹二十貫目ト改ム

○十一月布達

從來官員始諸家通行ノ砌役土人禮服ニテ先導致候處以後長官判官巡見等ノ外盡ク相廢但土地不案内旅客通行ノ節ハ道案内一人可差出事
同月達各係宛
全道中是迄人馬遣方一定ノ規律不相立不都合ノ廉相見候間追テ御

○運輸

陸運

四年六月達ヲ以テ人足番拂左ノ通改正

